



2026 年 9 月 17 日

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

2026 年 6 月期決算について

～「中期的収支均衡の原則」に基づき、
シーズン移行に伴う 1.5 年間の過去最大の計画投資を推進～

公益社団法人 日本プロサッカーリーグは、2026 年 9 月 8 日の臨時理事会において 2026 年 6 月期（2026 年 1 月～6 月／変則半期）の決算を承認し、本日の社員総会で報告を行いました。2026 年 6 月期におきましては、公益社団法人に求められる「中期的収支均衡 ※（旧：収支相償）の原則」に則り、過去の事業で蓄積された手元資金（期首一般正味財産 124.4 億円）を有効活用した先行投資を実行いたしました。Jリーグでは、2026 年 6 月期から 2027 年 6 月期までの 1.5 年間で集中投資期間と位置づけ、過去最大の計画投資（1.5 年累計 約 210 億円／2026 年 6 月期実績：80.6 億円、2027 年 6 月期予算：129.8 億円）を力強く推進してまいります。

今回の計画投資は、過去の事業で蓄積された資金を過剰に留保することなく、世界基準へ向けたシーズン移行をスムーズに行うための施策（ファン拡大施策やクラブ経営傾斜型助成、降雪エリアクラブへの施設整備助成、AFC チャンピオンズリーグ渡航支援等）を通じて、リーグ基盤の強化およびクラブ成長支援へ適正に還元した結果によるものです。これに伴い、2026 年 6 月期実績として当期経常増減額▲45.7 億円を計上しております。なお、一連の計画投資実行後におきましても、2026 年 6 月期末時点の一般正味財産残高は 78.8 億円を保持しており、不測の事態に対応可能な財務の安全性は万全に確保されております。

Jリーグは、今回の過去最大の投資によりリーグの基盤を強化し、拡大した事業収入を再び全国の J クラブや地域社会へ長期的に還元する循環サイクルを確立してまいります。

※「中期的収支均衡」とは：公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（公益認定法）により、公益法人に求められている財務規律であり、公益目的事業で剰余金が発生した場合は、5 年以内に解消させることが求められています。

J.LEAGUE TITLE PARTNER	J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER	J.LEAGUE PLATINUM PARTNERS	J.LEAGUE CUP TITLE PARTNER
SPORTS PROMOTION PARTNER J.LEAGUE SUPPORTING PARTNERS	J.LEAGUE GOLD PARTNERS		

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治安田生命ビル 8 階
<https://www.jleague.jp>



科目		2026 年 6 月期 決算（6 ヲ月）	2025 年度 決算（12 ヲ月）
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
	受取入会金	125	90
	受取会費	700	1,400
	協賛金収益	4,194	7,089
	Jリーグ主管試合入場料収益	407	400
	公衆送信権料収益	10,362	22,187
	商品化権料収益	281	592
	その他	1,180	2,872
経常収益計		17,249	34,630
(2)経常費用			
① 事業費		21,315	32,195
	リーグ運営経費	4,664	3,776
	クラブへの配分金	6,504	12,735
	その他	10,148	15,684
② 管理費		502	996
経常費用計		21,817	33,191
当期経常増減額		▲4,568	1,439
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益		13	0
(2)経常外費用		3	79
当期経常外増減額		10	▲79
当期一般正味財産増減額		▲4,558	1,360
一般正味財産期首残高		12,441	11,081
一般正味財産期末残高		7,883	12,441
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金		1	1
一般正味財産への振替額		▲5	▲14
当期指定正味財産増減額		▲4	▲13
指定正味財産期首残高		5	18
指定正味財産期末残高		0	5
III 正味財産期末残高		7,883	12,445

以上

<本件に関するお問い合わせ>

Jリーグ広報部 Email: mediach@j-league.or.jp